

令和7年9月25日

新潟県中越地域における保全計画に基づく活動状況等の評価
(令和7年度第3回世界農業遺産等専門家会議)

1 評価

貴地域では、地域の農業遺産の保全活動が概ね適切に行われていることが確認できたため、今後も引き続き活動を維持されたい。

2 専門家会議による助言事項

更なる保全・活用に向け、以下の助言事項を参考として今後の保全活動に取り組むことが望ましい。

- (1) 牛糞堆肥の活用をはじめとする資源循環型農業の推進や、減農薬・減化学肥料など、生物多様性の保全及び農薬使用の低減に関する取組について、次期保全計画において項目立てされることが望まれる。
- (2) 牛の肥育及び牛の角突きと農業とのつながり、養鯉業と農業とのつながり及び特徴的な社会組織「マキ」の継承など、農業と伝統文化のつながりを強調されることが望まれる。
- (3) 棚田における稲作は、経済的利益を目的とした営農ではなく、自家消費を中心とした「暮らしの農業」として継続されている点を次期保全計画に明記し、こうした暮らしを支える伝統的な農業技術の継承と保全を目標として位置付けることを検討されたい。
- (4) 引き続き、デジタル村民制度等による関係人口の創出に取り組むとともに、地域住民、地域から離れた人、デジタル村民による接点や交流の場の提供を継続的に実施することにより、地域人口を維持することが望まれる。
- (5) 中越地震が地域にもたらした変化に対するレジリエンスの形成と、農業・養鯉業・地域文化などとの関連について、次期保全計画において強調されることが望まれる。

(以上)